PRESS RELEASE

日比野克彦

《「明後日朝顔プロジェクト 21」のためのスケッチ》

2006 年

〈金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム〉

日比野克彦アートプロジェクト　「ホーム→アンド←アウェー」方式

明後日朝顔プロジェクト 21

会期：2007 年 4 月～2007 年 10 月頃

金沢21世紀美術館

21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

プロジェクト概要

■プロジェクト名称：明後日（あさって）朝顔プロジェクト 21

■展覧会名称：〈金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム〉
日比野克彦アートプロジェクト　「ホーム→アンド←アウェー」方式

■プロジェクト会期：2007年4月～2007年10月頃

■展覧会会期：2007 年 4 月～2008 年 3 月 20 日（木・祝）
＊作品展示期間は 2007 年 9 月 29 日（土）～2008 年 3 月 20 日（木・祝）

■プロジェクト会場：金沢 21 世紀美術館のまわり

■主催：金沢 21 世紀美術館　〔(財) 金沢芸術創造財団〕

■助成：読売新聞社、美術館連絡協議会、芸術文化振興基金

本資料に関するお問い合わせ
金沢 21 世紀美術館
広報担当:江藤、岡田
TEL：076-220-2800
FAX：076-220-2802
〒920-8509　金沢市広坂 1-2-1
http://www.kanazawa21.jp
E-mail:press@kanazawa21.jp

※取材希望および本プロジェクトの作品写真借用などは上記へお問い合わせください。

プロジェクトについて

【コンセプト】

日比野克彦アートプロジェクト「ホーム→アンド←アウェー」方式（会期：2007 年 4 月ー2008 年 3 月 20 日（木・祝））は、2007 年度に金沢 21 世紀美術館が実施する、〈金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム〉の中心として展開するプロジェクトです。〈金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム〉は、スウェーデンのストックホルム近代美術館が高校生向けに実施している教育プログラム「ゾーン・モデルナ」をモデルにしたもので、十代後半以降の若者に芸術活動参画の機会を提供し、ニート支援も視野に入れた若者の人間形成への貢献を目的とした事業です。

日比野克彦アートプロジェクト「ホーム→アンド←アウェー」方式の最初のプロジェクトとして始動する「明後日（あさって）朝顔プロジェクト 21」では、美術館を舞台に幅広い年齢・職業の人々が、「朝顔」を通じて作家と様々な活動を展開しながら自分を発見し、多様な人々と出会い、それぞれに新しいつながりをつくり出していくことを目指しています。外周約 350 m の金沢 21 世紀美術館の建物を、満開の朝顔が覆うという前代未聞の壮大なプロジェクトです。この共通のイメージに向かって、子どもたちを中心に市民が共同作業を展開します。

「朝顔」は、日比野が「越後妻有アートトリエンナーレ」に参加した際、地元の人々と共同作業をするうえで見出した素材です。日頃アートと接する機会がないという人々が、「お客様を迎えるために」と花を飾ってくれた気持ちを、日比野がアートプロジェクトへと発展させました。廃校となった校舎の屋根まで朝顔がのぼっていく、という共通のイメージに向かって、人々は朝顔を育て、朝顔は秋に種を残し、その種は日比野とともに移動し、水戸や岐阜で芽を出しました。

今年、四代目の朝顔が金沢 21 世紀美術館で花を咲かせます。このプロジェクトによってまかれた種は、地域のあちこちで芽を出し、人々の交流を生み出していきます。「朝顔」は〈金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム〉のコンセプトの象徴的なツールとなることでしょう。

【スケジュール（予定）】

土作り、種まき、苗の植え替えといった、朝顔を育てる一連の作業を通じて、誰もが気軽に美術館に足を運ぶ機会を作ります。7 月から 8 月にかけて、金沢 21 世紀美術館の透明な外壁を朝顔が覆う光景が見られる予定です。建物の外からだけでなく、中からも朝顔を観賞できるのは、金沢 21 世紀美術館ならではの見どころです。秋には種とりのイベントも実施し、全国各地からの来館者、地元の人々が種を持ち帰り、来年の夏には全国で朝顔が芽を出すイメージを共有します。

4 月下旬	土作り
5 月上旬	種まき
5 月 18 日（金）	苗の植え替え
7–8 月	朝顔開花
10 月	種とり

展覧会概要

〈金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム〉

日比野克彦アートプロジェクト　「ホーム→アンド←アウェー」方式

日比野克彦がこれまでの活動で培ったネットワークやシステムをもとに、金沢に人や地域の交流の場をつくりだす。自分自身やその置かれた環境（ホーム）と、他人や未知の環境（アウェー）を行き来することで自分を発見し、多様な人々と出会い、新しいつながりを作り出していくことを目指す。

本プロジェクトでは、日比野からプロジェクト参加者、来館者へと人をつなぎ、さらには金沢から全国へと地域をつなぐ。会期中には、金沢21世紀美術館の3つの会場を基点に、講座、ワークショップ、イベント、作品展示など多様な活動が行われ、それぞれが相互に影響しあう空間がつくられる。

会期中には、同時開催中の展覧会出品作家とのコラボレーションも展開され、上半期には「我が文明：グレイソン・ペリー展」（会期：4月28日（土）～8月31日（金））における、日比野氏による若者向けワークショップの実施などが予定されている。

● 明後日（あさって）朝顔プロジェクト21

2007年4月ー10月頃〈美術館のまわり〉

様々な年齢・職業の人々が、気軽に参加できるプログラム。外周約350mの金沢21世紀美術館の建物を満開の朝顔が覆うという前代未聞の壮大なプロジェクト。この共通のイメージに向かって、子どもたちを中心に市民が共同作業を展開する。

● DOCKYARD⇔SEED

2007年8月7日(火)ー2008年3月20日(木・祝)〈プロジェクト工房〉

作品展示に先駆けて始動する教育普及プログラム。参加者は本プロジェクト運営の核となり、様々な表現活動を行う。

● PIER⇔LEAF

2007年9月29日(土)ー2008年3月20日(木・祝)〈長期インスタレーションルーム〉

作家、「DOCKYARD⇔SEED」参加者、来館者の交流の場となり、参加型の作品が展示される。

● LIGHTHOUSE⇔FLOWER

2007年9月29日(土)ー2008年3月20日(木・祝)〈展示室13〉

「ホーム→アンド←アウェー」の象徴となる日比野の新作を展示する。

作家紹介

日比野克彦（アーティスト）

1958 年岐阜市生まれ。東京芸術大学大学院修了。在学中にダンボール作品で注目を浴び、国内外で個展・グループ展を多数開催する他、舞台美術、パブリックアートなど、多岐にわたる分野で活動中。近年は各地で一般参加者とその地域の特性を生かしたワークショップを多く行っている。1982 年第３回日本グラフィック展大賞、1983 年第 30 回ＡＤＣ賞最高賞、第１回 JACA 展グランプリを受賞。1986 年シドニー・ビエンナーレ、1995 年ヴェネチア・ビエンナーレに出品、1999 年度毎日デザイン賞グランプリを受賞。「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2003」では「明後日新聞社文化事業部」を設立、活動を継続中。2005 年は「愛・地球博」に参加。水戸芸術館で「HIBINO EXPO 2005 日比野克彦の一人万博」を開催し、準備期間からその後までを追った写真集「Yesterday Today Tomorrow」を発行した。
昨年は、太宰府天満宮宝物殿にて日比野克彦展「描く書く然々（かくカクしかジカ)」を、九州国立博物館にて、ワールドカップをテーマに「アジア代表日本」というサッカーと美術の融合という新しい試みに挑戦する展覧会を開催した。会期前のワークショップで、延べ 12000 人の手によって 2 ヶ月かけて創られた、アジアの国々をイメージした「FUNE」は、新潟、横浜へと出航し「art voyage」という新たなプロジェクトが展開中。岐阜県美術館で個展「HIBINO DNA AND…　日比野克彦応答せよ！！」を開催すると同時に、長良川に和紙灯りの付いた鵜飼船を流す「こよみのよぶね」を実施。
2007 年は金沢 21 世紀美術館、霧島アートの森、熊本市現代美術館での個展を開催する。

「CAFE HIBINO NETWORK」（オフィシャルウェブサイト）http://www.hibino.cc

参考画像

日比野克彦　《「明後日（あさって）朝顔プロジェクト 21」のためのスケッチ》　2006 年

《水戸でのプロジェクト風景》　2005 年

《水戸でのプロジェクト風景》 2006 年

《「明後日新聞社」でのプロジェクト風景》、2006 年

《福岡でのプロジェクト風景》 2006 年